

松原寺通信

第十八号 令和七年八月二十日
発刊 松原寺 彦根市松原二丁目
発行 責任者 佐々木 亮 釋亮真

夏の終わりのハーモニ

夏場の月参りは、セミの声とお経で素敵なハーモニを奏でます。と優雅にいきたいところですが、セミの鳴き声に負けないように、セミと私との熱い戦いが密かに繰り広げられています。

お家によっては、お仏壇のすぐ近くに木があつて大量のセミが、鼓膜が割れんばかりの音量で鳴いています。私はその音量に負けないように「光顔巍巍」と声を張り上げるのです。以前から気になつていたのですが、私がお経をとなえ始めると、今まで鳴いていなかったセミが鳴き始め、すでに鳴いていたセミの音量が上がります。気のせいでしょうか。一度、

探偵ナイトスクープなんかで検証してもらつても面白いかもしれませんね。

我々がとなえるお経の中でセミは鳴きませんが、鳥の鳴く様子が書かれています。阿弥陀経には、お浄土に住むとされる、白鵠(びやくこう)・孔雀(くじゃく)・鸚鵡(おうむ)・舍利(しやり)・迦陵頻伽(かりようびんが)・共命鳥(ぐみようちよう)の鳴く姿があります。これらは、阿弥陀様が説く法を、鳥を使って表していると言われています。確かに鳥のさえずりは美しくお浄土にピッタリですよ。一方のセミは、大体「ジー」か「シャーシャー」。大音量かつ単調で、仏法とは無縁の様な気がします。ところ



セミつかみが日課の息子です。

が、一つだけ例外があります。それは、夕方の山で鳴く「ひぐらし」です。日が暮れる山間で「カナカナナカナ」とリバーブ効果が効いた鳴き声が響き渡る。目を閉じて聴くとまるで天台声明のようです。近所にいるセミと違って、どこか遠くの高い所から、やんわりとした音量で聞こえてくるころにも風情を感じますし、夕暮れの静けさと合わさつて、なんとなく心が落ち着きます。「微風吹動」。そこにそよ風が吹けば、辺りはもう阿弥陀経にあるお浄土の世界です。

お知らせ

・子どもプレ報恩講

日時 .. 10月12日(日)

15時~20時頃

参加費 .. 無料 申込制

参加人数 .. 30名

内容

書道大会 お供え作り

かき氷(重號朗) 射的

カレ(マツバラベ・ス號)

わたがし、肝試し など

夏から秋に変更した松原寺の子供向けイベントです。18日の報恩講の夜の部と連動しており、書道大会の優秀作品については、そちらで豪華景品がもらえます。

参加希望の方は、お寺までお名前を連絡下さい。他のお友達もぜひ誘つて下さい。申し込みは、ホームページの「お問い合わせ」から。その他、詳細なども、ホームページに掲載致します。